

2020年11月18日

あやべ市民新聞(4面)に掲載されました

日東精工が開発した異種金属の 接合技術「AKROSE(アクローズ)」

「素形材産業技術賞」受賞

東証1部上場の日東精工(本社・井倉町、材木正己社長)による「冷間圧造技術を応用した異種金属接合技術の開発と量産化」を手

掛けた技術開発者がこのほど、第36回「素形材産業技術賞」(一般財団法人素形材センター主催)で同センター会長賞を受賞した。

のほかに経済産業大臣賞、中小企業庁長官賞などを合わせて計8件の技術の開発者が表彰を受けた。

同社が今回受賞した接合技術「AKROSE(アクローズ)」は、近年自動車業界を中心に軽量化や高強度化のために特性が異なる金属材料などを組み合わせ「マルチマテリアル化」が注目される中で開発、特許を取得して2018年11月に発売した。今年10月には技術を更に進化させた「アクローズハイブリッド」も販売開始している。

【高崎健太】



経済産業省エントランス
ホールに展示されている
受賞製品ニ日東精工提供

この表彰制度は、日本の素形材産業の振興を目的として1985年に創設。今年度の表彰は5日に東京都内で行われた「素形材月間記念式典」内で行われた。今年度は同賞のほかに経済産業大臣賞、中小企業庁長官賞などを合わせて計8件の技術の開発者が表彰を受けた。